

自閉症の症状出現のメカニズム解明- 表情を認識する脳部位に障害

いいね!



【動画】レポート・介護の現場
(介護食)



医薬品審査手続きの透明化を要
求



3類以外もネット販売の可能性
の検討を



相談支援や情報提供で集中審議



新型流行時の搬送体制、協議済
み半数止まり

相手の気持ちが読めない。自閉症の特徴的な症状とされる社会性の障害が現れる原因が、アセチルコリン神経というヒトの表情を視覚的に認識する脳の部位の機能低下に関係していることが明らかになった。この研究成果は、浜松医科大学と中京大、NPO法人アスペ・エルデの会で作る共同研究チームによるもの。3月7日付で、米国の専門誌「Archives of General Psychiatry」に掲載された。

【関連記事】

障害児・者実態調査の試行調査、委員から意見
相次ぐ

自閉症の実態調査を

「引きこもり」「在日」にも障害者福祉は必要
—12団体が新制度へ要望

「障がい者制度改革推進会議」に発達障害の当
事者を一日本発達障害ネットワーク

自閉症、脳内の神経の働きと関係—浜松医科大学



自閉症の症状のうち「相手の気持ちが読めない」という社会性に関する障害に関するメカニズムを解明し、記者会見を開く研究チーム。中村准教授は左端（3月4日、文科省内）

自閉症は、▽相手の気持ちが読めない社会的相互作用の障害▽自分の気持ちをうまく伝えられないコミュニケーションの障害▽「こだわり」として限定され、いつも同じような形で繰り返される行動・興味・活動—という3つの特徴を持つ神経発達障害。

研究では、このうち「相手の気持ちが読めない」という特徴に着目。その原因は以前から、相手と視線を合わせないためと考えられてきたが、脳の紡錘状回というヒトの表情を認識する部位でアセチルコリン神経の活動が低下していることが判明。さらに、アセチルコリン神経の活動異常を頭部専用PET（陽電子放射断層撮影）で画像としてとらえることに成功した。

アセチルコリン神経の神経終末には、アセチルコリンエステラーゼ（AChE）というたんぱく質が存在する。神経の機能が低下すると神経終末が少なくなり、AChEもそれに伴って減少する。PETは生きた脳の神経の働きをとらえることが可能で、今回の研究では、自閉症の18歳—33歳の20人と同年代の健常者20人をそれぞれ調べたところ、自閉症の人では、紡錘状回のアセチルコリン神経の機能が健常者より低下しており、その程度が大きいほど「相手の気持ちが読めない」という症状が強いことが分かった。

掲載に先立ち、文部科学省で記者会見した研究チームの中村和彦・浜松医科大学精神神経医学講座准教授は、「自閉症は、喜怒哀楽を示す顔を認知することができないというのが特徴。『見る』ということは、情報の中で9割程度を占める。その情報を解析する脳の部位に障害が確認されたことで、今後の療育の在り方や工夫につながるエビデンスになれば」と述べた。

（2011年03月08日 06:00 キャリアブレイン）